

令和5年度 活動報告 (年報)



駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅からの千畳敷カールと木曾駒ヶ岳乗越浄土

林野庁 中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター

令和6年5月10日発行

〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島 5473-8
TEL 0264(22)2122
E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

活動内容等

一年を振り返って	…	1
第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組		
1 三者協定現地検討会を開催	…	2
2 木曾ヒノキ古根株のサンプル採取	…	3
第2 自然再生事業		
1 中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業	…	4
2 「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査	…	5
第3 ニホンジカによる植生被害を予防するための調査事業		
1 センサーカメラによる生息調査	…	7
2 ライトセンサスによる生息調査	…	9
第4 森林環境教育への取組		
1 自然観察学習の実施	…	9
2 地元高校生の就業体験	…	10
3 木曾地区みどりの少年団交流会	…	11
4 教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	…	11
5 みよし市友好の森ふれあいツアーで森林整備	…	12
6 木曾郡植樹祭に参加	…	12
第5 森林散策・木曾谷支援事業		
1 パズルラリー	…	13
2 木曾路ナチュラルトレッキング Map の改訂版を作成	…	15
第6 森林ボランティアへの技術支援		
1 森林ボランティア・NPO連携推進会議	…	16
2 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム	…	16
年間の活動及び行事等	…	18

活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」
令和4年	11月24日		所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5473-8)

令和6年1月1日に石川県能登地方で発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

一年を振り返って

令和5年度は、昨年11月に事務所を移転し新たな職場環境で本格的に業務へ取り組む年となりましたが、4月当初に職員3名中2名が交替、10月にも1名が交替し新たな体制で取組を進めた年でもありました。

そして、5月から新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類感染症となり、基本的感染対策も政府として一律に対応を求めることや感染対策の実施も個人等の判断が基本となり、木曾へ訪れる観光客の方々も徐々にではありますがコロナ感染症が流行する前に戻りつつあることが感じられる年にもなりました。

木曾谷の賑わいが戻ってきている状況のなか、体験林業や森林教室等の要請やイベント開催も昨年度より増えて森林へ訪れる方々も多くなり、当センターとしても基本的な感染対策を講じたうえで自然再生事業の取組や森林教室等の支援を行わせていただきました。

詳しい内容は次ページ以降で説明させていただきますが、令和5年度に当センターが行った取組について紹介させていただきます。

1. 自然再生・生物多様性の保全・その他森林整備の推進・技術的指導に関する取組
 - ① 中央アルプス木曾駒ヶ岳植生復元事業での植生マットの補修・播種作業。
 - ② 三者協定（信州大学農学部・森林総合研究所・中部森林管理局）に基づく連携により三浦実験林や試験地での天然更新調査。
 - ③ 城山国有林「城山史跡の森」における希少野生植物の保護及び植生調査。
 - ④ 中央アルプス山麓地域等でのニホンジカ被害対策としての生息調査（センサーカメラ、ライトセンサス）。調査結果は当センターホームページにて公開しています。
 - ⑤ 森林ボランティア・NPO団体との連携や技術的指導。
2. 森林に関する教育・学習に関する支援及び地域振興の取組
 - ① 木曾地域の教職員への森林林業体験学習会の実施。
 - ② 中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア・NPO団体との連携会議の開催。
 - ③ 学生たちへの体験学習の指導・森林散策案内の実施。
 - ④ 地元高校生の就業体験。
 - ⑤ 木曾十一宿（旧中山道の宿場町）、赤沢自然休養林、木曾御嶽山麓の3つのエリアでパズルラリーを開催。
 - ⑥ 平成26年初版の「木曾路ナチュラルトレッキングマップ」改訂版の作成。

一年間、地域の方々や多くの関係機関・関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら活動を行うことが出来ましたことに感謝申し上げます。

令和6年度も自然再生事業や森林教育支援等に継続して取り組んで参りますので、これまでと同様にご指導ご協力をお願いいたします。

【所長 大野田学】

第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

木曾悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曾地方（長野県木曾地域及び岐阜県裏木曾地域）の森林は、良質な木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では、木曾地方の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされるさまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曾悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等と連携を図りつつ調査や普及活動を行っています。

広がりを持って永続する天然林へ復元させる作業を人工林の優良木材も得つつ、超長期にわたって計画的に行うため、3つのエリア（コアa（核心地域）、コアb（核心地域）、バッファ（緩衝地域））として設定しています。



位置図



温帯性針葉樹林（木曾郡上松町）

- ※ コア a（核心地域）：温帯性針葉樹林を厳格に保存する区域
- コア b（核心地域）：温帯性針葉樹林の復元を図る区域
- バッファ（緩衝地域）：コアを守るための区域

1 三者協定現地検討会を開催

中部森林管理局では、平成 28 年度に信州大学農学部および（国研）森林機構 森林総合研究所との間で、「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、それぞれが実施する研究、事業、イベント等において、連携・協力を行い、地域の森林・林業と木材利用の課題を解決し、併せてその成果を活用する取組によって地域振興を図ることを目的としたものです。

6月13～14日、木曾森林管理署管内の国有林において、三者協定（森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定）現地検討会を行い関係者20名が参加しました。

初日は、「木曾悠久の森」のコア a（核心地域）に位置



古い根株を確認し意見交換

する木曽郡上松町の赤沢自然休養林において、現在の木曽ヒノキ林成立以前の林分構造を推定するために当センターと森林総研で調査・分析を行い樹齢が1,000年程度と推定された木曽ヒノキの古い根株等を確認し、今後の調査・分析や取扱いについて意見交換を行いました。



木曽ヒノキ天然更新試験地で現地検討

2日目は、王滝村の三浦国有林において、木曽ヒノキの天然更新技術の確立に向けて森林総研と木曽森林管理署が共同調査を行っている試験地を視察し、天然更新の妨げになるササの処理方法とヒノキの稚樹の発生状況を確認しながら、更新補助技術について検討を行いました。

現地検討会は新型コロナウイルス感染症の影響から4年ぶりの開催となりましたが、参加者からは調査方法等についての質問や意見、アドバイスが出される等、関係者相互に研究成果の理解を深めることができ、大変有意義なものとなりました。

2 木曽ヒノキ古根株のサンプル採取

12月6・7日の2日間、木曽郡上松町の小川入国有林において、木曽ヒノキの古い根株の年代推定を行うために2つの根株から木片サンプルを採取しました。

この取組は、(国研)森林機構森林総合研究所と協働で、木曽ヒノキの古い根株の木片サンプルを採取し「酸素同位体比分析」で根株の生育していた時代や樹齢を解明することにより古代の林分構造を推定しようとするもので、木曽森林管理署職員との協力によりチェーンソーも使いながら慎重にサンプル採取を行いました。



サンプル採取する古根株



採取したサンプル

採取したサンプルは(国研)森林機構森林総合研究所へ運搬し分析が進められていますが、これまで平成30年度と令和2年度に採取・分析された2つの古い根株は、1,000年程度と600年程度生きたとする推定結果が得られています。

今回を含めて今後は更に多くの根株からサンプルを採取し木曽ヒノキの年代測定を進めることで古代の林分構造をより明らかにし、天然林の育成整備や天然更新技術の検討に資するとともに、天然ヒノキ等より構成されている木曽地方の温帯性針葉樹林を保存・復元するために設定した「木曽悠久の森」の価値や保護の必要性等のPRにも活用していく考えです。

第2 自然再生事業

NPO等との連携を図りつつ、地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施しています。

1 中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業

(1) 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立ち上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てて関係署および関係機関の協力の下、平成17年度より植生復元事業に取り組んでいます。

◎年度別のマット敷設経過と参加者数

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (m ²)	参加者 (人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 2	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 9	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
29. 9. 14	天狗荘裏	95	16
30. 9. 13	天狗荘裏	80	13
元. 9. 1	天狗荘裏	80	15
2. 10. 1	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	150	12
3. 9. 27	乗越浄土・伊那前岳九合目	60	11
4. 9. 8	伊那前岳九合目	220	24
5. 9. 6	天狗荘裏から中岳へ至る登山道沿い	200	26
計		3,108	493

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等を含む。
面積は延べである。

(2) 令和5年度の取組

今年度は夏山シーズン終盤の9月6日に、長野県上伊那地域振興局、駒ヶ根市、宮田村、南信森林管理署および木曾森林管理署の総勢26名の協力により、天狗荘裏から中岳へ至る登山道沿いにおいて植生マットの敷設(約200m²)とこの付近一帯に自生する高山植物の播種を行いました。

当日の作業を迎えるにあたっては、事前に植生マットの運搬や播種用の種子採取を地元森林事務所等の応援により準備を進め、資材は木曾駒ヶ岳に至る稜線沿いの駒ヶ岳管理センター（避難小屋）に仮置きさせていただきました。

作業は駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅から駒ヶ岳へ向かう途中にある天狗荘付近の標高約 2,870mの登山道沿いで行い、小雨が降る中での作業ではありましたが、強風に見舞われることもなく参加者同士で連携しながら無事に予定した植生マット敷設と種子播種を終えることができました。



植生マットの運搬



種子の採取



小雨の中での植生マット敷設作業



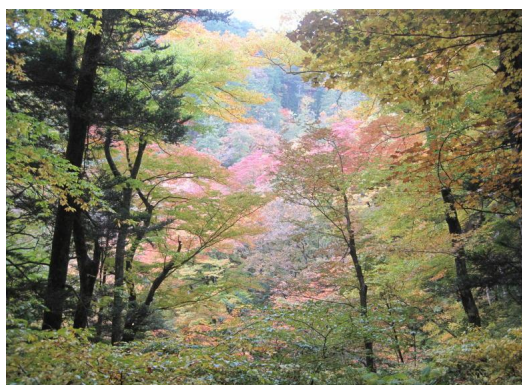
敷設完了

作業地付近には近年の植生復元箇所もあり、少しずつではありますが高山植物が回復している状況が見られていることから、今後も関係機関と連携して高山植物の保護・復元に取り組んでいく考えです。

2 「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査

木曾郡木曾町福島市街地の北西に位置する城山（じょうやま）国有林は、戦国時代に木曾氏によって築かれた山城の福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝等の史跡に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ等の大径木や季節ごとの植物観察を気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

また、「城山史跡の森」は、福島城跡一帯の国有林、寺社有林等を利用した気軽なハイキ



城山の遊歩道から見える紅葉

ングコースとして知られており、木曾川下流域の人たちとの交流の場としても活用されています。

(1) 希少野生植物等の生育箇所の整備

城山国有林には長野県希少野生動植物保護条例に指定されているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマの他、各地で保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。今年度も植生状況調査にあわせ、ササユリ自生地において野生動物による食害防止のための電気柵設置やカザグルマ自生地での生育に支障となるツル植物の除去作業等を行いました。

① カタクリの開花状況



開花の様子（4月21日）

② ヤマシャクヤクの開花状況



開花の様子（5月2日）

③ カザグルマの開花状況とツル植物の整理



開花の様子（5月17日）



ツル植物の整理（5月22日）

④ ササユリの保護と開花状況



電気柵の設置（5月16日）



開花の様子（6月15日）

毎年、野生動物の食害から守ることを目的に電気柵とセンサーカメラを設置していますが、今年度は食害等の被害はありませんでした。

⑤ 近年の開花状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
カタクリ	7 (310)	8 (374)	8 (345)
ヤマシャクヤク	172 (502)	271 (336)	154 (384)
カザグルマ	17 (137)	8 (124)	17 (113)
ササユリ	14 (59)	22 (61)	21 (67)

()内は個体数で外書き カザグルマは蔓本数

開花数は調査するタイミングで変わってしまいますが、個体数についてはカザグルマが減少傾向にあるため、どのような生育環境の整備が必要かを検討していく必要があります。

第3 ニホンジカによる植生被害を予防するための調査

ニホンジカ（以下、シカ）による森林被害は、再造林や適切な森林整備に支障を及ぼし下層植生の食害や樹木の食害によって森林生態系や公益的機能の発揮に大きな影響を与えています。

木曾地域では現在、著しい森林被害は見られないものの、木曾地域の東に位置する中央アルプス山麓ではシカの出現が年々増加傾向で、今後、他地域からの侵入等による森林被害増加が懸念されるため、木曾森林管理署及び木曾森林管理署南木曾支署において現地の実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等と連携を図り、センサーカメラ等による生息調査を行っています。

なお、今年度においては1月に開催された「中部森林技術交流発表会」において生息調査の状況を発表いたしました。

1 センサーカメラによる生息調査

平成28年度から中央アルプス、御嶽山麓の高山地帯と山麓地帯の国有林にセンサーカメラを設置しシカの生息状況の観測を行っており、現地状況に応じてカメラの設置場所を移設するなどして撮影を続けています。

令和2年度までの調査で、中央アルプスや御嶽山の高山地帯でニホンジカの生息範囲が広がっていることが確認されたため、令和3年度以降の調査では、シカの捕獲事業等を見据え、里山に近い山麓地帯での調査に重点を置き、11箇所センサーカメラによる撮影調査を行いました。



木曾地域のニホンジカ個体数調査箇所

今年度の調査では、これまでも確認数が少なかった木曾町の城山国有林等では撮影されなかったものの、以前から確認数が多かった木曾駒山麓線、奈良井国有林、伊奈川ダム上流を中心に全体的には多くのシカが撮影されました。



木曾駒山麓線（木曾町） オスのシカ

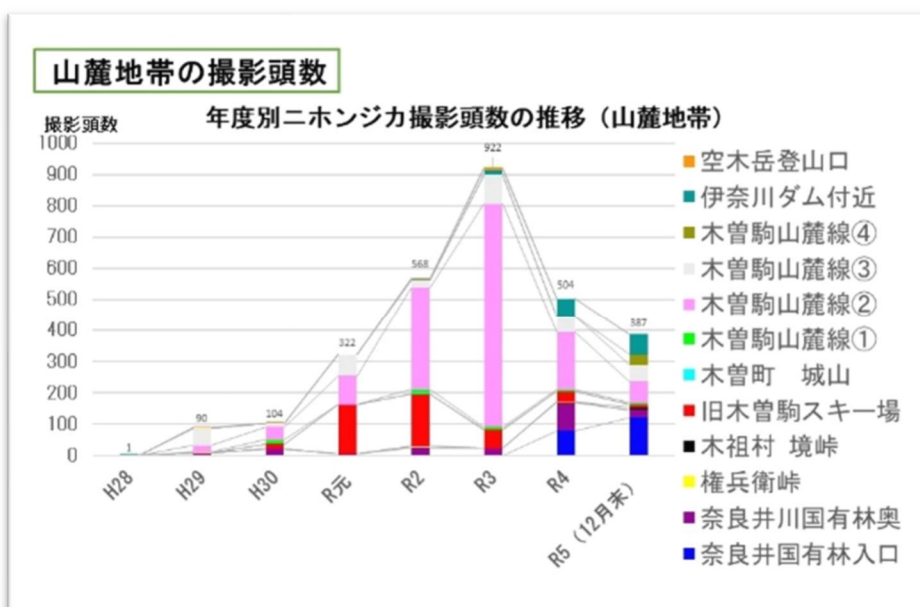


奈良井国有林（塩尻市）3頭のシカ

観測調査は平成28年度から毎年度行っており、設置箇所毎の撮影頭数の推移と性別の集計は表のとおりとなります。

なお、令和3年度の木曾駒山麓線②については、カメラ設置箇所付近に以前の調査で使用した餌（岩塩）の成分が残留していたため、シカが寄りつき突出した頭数になったと思われませんが、全体としては年度ごとの撮影数は上下するものの、年々撮影頭数は増加しています。

また、性別で見ると令和3年度まではオスジカの撮影数が多い状況でしたが、令和4年度からはメスジカの撮影数が多くなっており、メスジカの出産等を考慮すると今後の更なる生息数増加と森林被害が懸念されます。



年度別・性別撮影頭数

性別	年度								
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	
オス	1	37	58	247	296	478	126	161	
メス	0	51	44	74	231	325	336	276	
子	0	2	0	0	40	2	13	0	
性別不明	0	0	2	1	1	117	26	67	
計	1	90	104	322	568	922	501	504	

2 ライトセンサスによる生息調査

今年度のライトセンサスによるニホンジカの生息調査は、木曾町の木曾駒山麓線と王滝村の御嶽王滝黒沢線において、木曾地域振興局および木曾森林管理署の協力を得ながら、5月、6月、10月、11月に月1回実施しました。

調査の結果、木曾駒山麓線でシカ（性別不明）を確認しました。この区域では平成30年度以降シカと思われるものも含め毎年度確認しており、近隣に設置したセンサーカメラでもシカが多く撮影されていることから、区域一帯で個体数が増加していると考えられます。

一方、御嶽王滝黒沢線ではシカの生息は確認できず、ここ数年の調査からも特に増加している状況ではありませんでした。

平成29年度からの調査結果は右表のとおりですが、この調査では目撃回数は少ないものの、今後のシカの増加や活動範囲の変化等を読み取る上では大切なデータのひとつと考えられ、より精度が高い調査となるよう改善を行いながら、引き続き調査を進めていきます。



自動車によるライトセンサス

(頭)

年度	木曾駒山麓線				御岳王滝黒沢線			
	シカ			不明	シカ			不明
	オス	メス	子		オス	メス	子	
H29	0	0	0	0	未実施			
H30	1	0	0	1	0	0	0	2
R元	0	0	0	2	0	0	0	1
R2	0	0	(1)	0	0	0	0	1
R3	0	2	1	0	0	0	0	1
R4	0	1	0	0	0	0	0	0
R5	1	0	0	0	0	0	0	0

()は実施区間外

第4 森林環境教育への取組

1 自然観察実習の実施

(1) 作業体験と学術研究路見学

5月12日、長野県上松技術専門校の訓練生24名が上松町の小川入国有林内で歩道補修（チップ敷設）作業と赤沢自然休養林の学術研究路見学を行いました。

午前中の作業は訓練生が4班に分かれ、当センター及び木曾森林管理署職員からチップの敷き方について手順と安全上の注意点について説明を受けて作業に取り掛かり、チップを撒く箇所・厚さ等を班のメンバーで相談しながら作業を分担し予定した作業は無事終了しました。

午後の学術研究路見学では、樹齢300年余



休養林内の「御神木伐採跡地」を見学

りの木曾ヒノキやサワラ等が生育する森林を見学しながら、木曾ヒノキの歴史や木曾五木の見分け方などを学びました。

(2) 自然休養林内の見学

5月15日、木曾郡上松町の赤沢自然休養林で、岐阜県立加茂農林高等学校森林科学科の学生40名を対象とした自然観察実習が開催され、当センターと木曾森林管理署の職員が講師を務めました。

この自然学習は「日本三大美林の一つである木曾ヒノキ林を見学し、人工林施業の歴史の理解を深めること」を目的とするもので、職員が赤沢自然休養林の概要や木曾五木の特徴、木曾ヒノキの成り立ち等を説明しながら実習指導を行いました。

学生の皆さんは休養林内の木曾ヒノキとアスナロ（ヒバ）の二段林を見学し、伊勢神宮において20年に一度行われる式年遷宮の行事で昭和60年に伐採された御神木の切り株に直接接触れるとともに、パワースポットとして有名な根上がり木のくぐり抜けも体験するなどして、木曾の森林に親しみながら実習を終了しました。



木曾ヒノキとアスナロの二段林を見学



パワースポットに触れる

2 地元高校生の就業体験

当センターの地元、木曾町にある木曾青峰高校から「木曾森林ふれあい推進センターでの就業体験を希望する生徒がいる」との相談があり、7月25日からの3日間の予定で2年生1名の就業体験を受け入れました。

生徒は植物や動物が好きで当センターに興味をもっていたため就業体験を希望したとのことでした。

体験初日は、国有林の役割や当センターでの業務内容について説明した後、赤沢自然休養林へ向かい、木曾ヒノキを中心とした森林の観察と当センターが企画しているパズルラリーの資材入替え等の業務を体験しました。休養林では4時間以上も歩きましたが疲れた様子もなく元気な生徒の姿にセンター職員も感心していました。

2日目は、木曾地区みどりの少年団交流集会へ職員とともにスタッフとして参加し、クイズ形式での森林学習では少年団の子供たちに声を掛けながら一緒に答えを考えるなどして子供たちをフォローしていました。

そして最終日は、ニホンジカ被害対策のため南信森林管理署管内で開催された小



パズルラリーの用紙箱を点検中

林式誘因捕獲方法検討会へ参加し効果的なニホンジカの捕獲方法を見学、その後、場所を移動して当センターが高山地域におけるニホンジカの生息状況調査のために設置しているセンサーカメラのデータ回収とデータ解析を行って、3日間の就業体験が修了しました。

生徒からは「短い期間の中で、体験したいと考えていた内容が盛り込まれていて大変参考になった。これからの将来に役立てたい」との感想をいただきました。

いつの日か、国有林の職場でお会いできる日を楽しみにしたいと思います。

3 木曽地区みどりの少年団交流会

木曽地区のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑を愛する豊かな心を育むことを目的とした木曽地区のみどりの少年団交流集会在、7月26日(水)に長野県みどりの少年団連盟木曽地区協議会の主催で開催され、当センターからも2名が技術指導で参加しました。

この交流会は木曽地域の町村で毎年開催されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4年ぶりの開催となり、今年は木曽町「木曽駒森林公園」を会場として、木曽地域の11の少年団、引率教員、主催者、指導者等を含め約140名が参加しました。

当日は参加少年団の代表として4つのみどりの少年団から活動内容を発表し、その後10班に分かれて名札の作成及び自己紹介等のアイスブレイクを行って親しんだところで、班単位で森や自然、木曽五木等に関するクイズラリーを行いメンバー同士で交流を深めました。

午後は雷雨予報の影響で開催時間を急遽短縮することとなりましたが、各少年団の子供たちにとっては他地域の緑の少年団と交流を深める貴重な夏休みのひと時になったと思います。



200グラムの丸太切りに挑戦する団員達

4 教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催

木曽郡内の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を、8月2日(水)に中学校教職員1名及び関係者4名が参加して、木曽郡木祖村の水木沢天然林(小本曾国有林)及び木曽町の御料館(旧帝室林野局木曽支局庁舎)で開催しました。



説明を受ける参加者

この学習会は、小・中学校等の教職員を対象に、国有林を主なフィールドとして森林・林業に関する学習会を開催することにより、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めていただくとともに、学校教育の中で森林環境教育が積極的に実践されるようになることを目的に、長野県との共催により平成14年度から実施しています。

木曽川の源流のひとつであり「木曽川源流の里 水木沢」の名称で平成の名水百選にも選定されている水木沢周辺での学習会の開催は今回が初めてでしたが、当センターと木曽森林管理署の職員がガイドをしながら、樹齢300年前後の木曽ヒノキやサワラ、ブナ等で構成されている貴重な混交林

を見学しました。

その後、水木沢天然林の中で昼食を取ったあと御料館へ移動し、木曾町から派遣していただいた講師の説明を受けながら、館内に展示されている貴重な林業資料や標本を見学し木曾谷の歴史や林業の変遷について学びました。

5 みよし市友好の森ふれあいツアーで森林整備

9月2日(土)、木曾町三岳地区において「みよし市友好の森ふれあいツアー」が開催され、当センターから2名が参加し木曾地域振興局、木曾森林組合の職員と協力して間伐作業等の指導を行いました。



間伐体験をする参加者

この「みよし市友好の森」は、元々国有林であった森林を、平成3年度および11年度に当時の愛知県三好町が住民の暮らしで恩恵を受けている木曾川水源地の保全と「地球環境への貢献」、「環境教育の向上」等を目的に取得したもので、このフィールドを活用したふれあいツアーが平成15年から開催されているものです。

みよしの参加者26名は5班に分かれてヒノキの間伐作業とクマによるヒノキの皮剥ぎ被害防止のためのテープ巻き作業を体験しました。

この日は天候にも恵まれ、ふれあいツアーに毎回参加され作業経験豊富な市民もいたことから予定した作業は怪我もなく無事に終了しました。

ツアー終了後にみよし市が行ったアンケートでは、「木を切ることがとても楽しかった」「指導員の皆さんの説明がわかりやすかった」「木曾町にまた行きたい」との感想が寄せられ、指導を行った私たち職員もこの活動の大切さを再認識するとともに、今後も継続して取り組んでいく必要があると感じました。

6 木曾郡植樹祭に参加

10月12日に木曾郡上松町小川の大井野共有林において、長野県木曾地域振興局等が主催する「木曾郡植樹祭」がコロナ過の影響もあり5年ぶりに開催されました。この植樹祭は、本年度の緑化運動の一環として、森林整備の一層の推進と意識の高揚を図ることを目的に、県内外の来賓や林業関係者、木曾川下流域の水道企業団や上松小学校の「みどりの少年団」等総勢約120名が参加し植・育樹作業を行いました。

式典では、「みどりの少年団」代表者から「みどりの宣言」が力強く発表され、その後式典会場内において来賓や主催者・後援者の手により上松町の町花である「オオヤマレンゲ」3本を植樹し、記念標柱を建立しました。

育樹作業は、平成7年の県植樹祭で植えたヒノキ林(29年生)において、ツキノワグマの皮ハギ防止のためのテープ巻きを行いました。テープ巻きを初めて行う参加者も多いようでしたが、作業を進めるうちに徐々に手際が良くなり、予定された作業は無事に終わることができました。



テープ巻きを行う参加者

第5 森林散策・木曾谷支援事業

1 パズルラリー

「森林に親しみながら、その大切さを理解してもらおう」というコンセプトと、御嶽山噴火災害により観光客数が低迷した木曾地域の観光産業への支援のため、当センターでは木曾街道にちなんだ「中山道木曾十一宿パズルラリー」、「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」および「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」を実施しています。

パズルラリーは平成28年度から始めた取組ですが、参加者だけでなく協賛していただいている関係団体からも好評を得ており、地元町村や観光関係者の皆様の協力を得ながら木曾谷支援の取組として引き続き実施していく予定です。

(1) 中山道 木曾十一宿パズルラリー第2弾

旧中山道である木曾街道には十一の旧宿場があり、長野県塩尻市の贄川（にえかわ）宿から木曾郡木曾町の福島宿までを北部、木曾郡上松町の上松宿から岐阜県中津川市の馬籠（まごめ）宿までを南部として実施しています。



北部の完成品（奈良井宿）



南部の完成品（須原宿）

北部と南部にある旧宿場の観光案内所や関所跡等の12箇所に6分割した2種類の浮世絵の木製ピースを置き、これらを全て集めると2種類の絵柄が完成するもので、パズルの絵柄は、江戸時代の浮世絵師「歌川広重」が描いた木曾街道六十九次の中から、北部は「奈良井宿」、南部は「須原宿」を採用しています。

ラリーはパズルピースを集め、その写真と応募用紙を一緒に当センターに送付または直接持参していただくと貼り板と台座を贈呈して終了となります。

第2弾は令和2年1月から開始しており、北部、南部でそれぞれ300セットを用意し、南部は令和5年8月に全てのパズルが無くなったため終了となりましたが、北部のパズルラリーは引き続き行っています。

(2) 御嶽山麓トレッキングパズルラリー

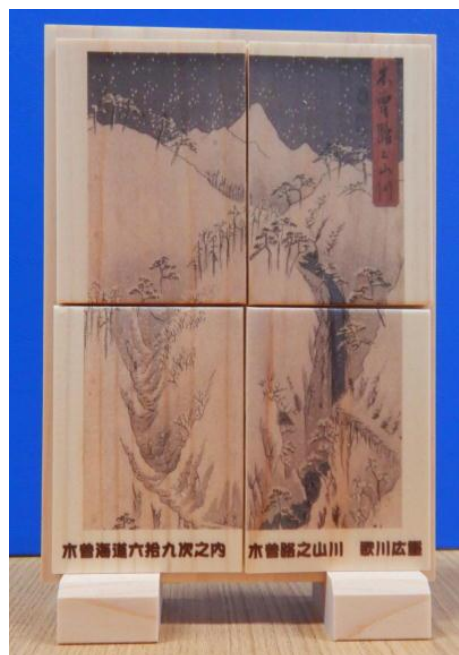
木曾谷観光産業の更なる復興支援として、令和2年8月より「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」を行っており、今年度も御嶽山などに訪れる人が多くなる6月下旬から11月上旬にかけて実施しました。

このパズルラリーでは、木製ピースの配付場所を「おんたけロープウェイ駅」、「温泉施設やまゆり荘」、「玉滝村観光総合事務所」、「開田高原観光案内所」の4箇所に設置しており、全パズルピースを集め、その写真と応募用紙を一緒に当センタ

ーに送付または直接持参していただくと貼り板と台座を贈呈して終了となります。

パズルの絵柄は、木曾十一宿パズルラリーと同じく「歌川広重」が描いた「木曾路之山川」を採用しています。

参加された方からは「色々な所に立ち寄る動機ができてよかった」等の感想をいただきましたが、「たまたま観光事務所に立ち寄った時にすすめられたが、それまで知らなかったので道の駅などで宣伝したらいい」との意見もあったことから、今後は関係機関の協力もいただきながら、より多くの方が参加しやすいパズルラリーの実施に向けて取組んでいきたいと思っております。



御岳山麓パズルラリーの完成品

(3) 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

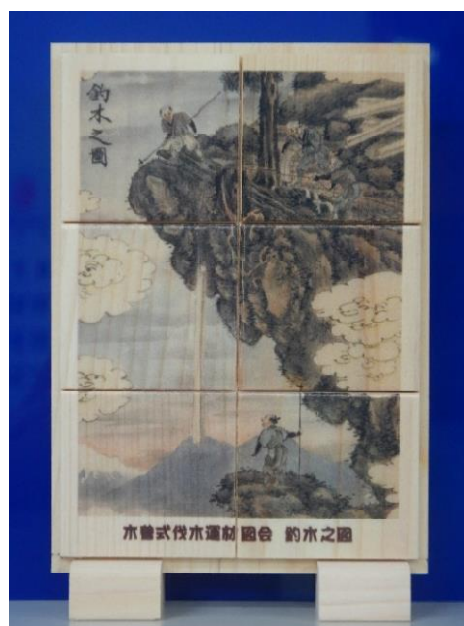
「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」は赤沢自然休養林の開園に合わせた4月下旬から11月上旬にかけて、第8弾と第9弾を実施しました。

このラリーは、休養林の遊歩道を散策しながら、途中にある6箇所全てのスタンプを押すと木製パズルセットがもらえるもので、パズルの絵柄には、江戸時代後期頃の木曾地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、木曾川を利用した流送、熱田白鳥貯木場（愛知県名古屋市の）での集積、大型船による海上輸送までの一連の様子が描かれた「木曾式伐木運材図会」を使用しています。

第8弾のパズルの絵柄には、桴（いかだ）による流送で、労働者達が作業の合間に余興を行っている場面が描かれた「角乗之図（かくのりのず）」を採用し、前年度に引き続き実施しましたが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたこともあり、5月には用意したパズルが全て終了しました。



全ポイントを達成した応募用紙



第9弾「釣木之図」の完成品

このため、第9弾は、労働者達が険しい岸壁で貴重な材木を運搬している場面の「釣木之図(つりきのず)」により、パズル500枚を製作して7月からラリーを開始しましたが、第9弾も好評で11月の閉園までに450組近い方が全ポイントを達成しました。

パズルラリーの詳細内容は 当センターのホームページに掲載しています。

(4) パズルラリーを活用した交通安全教室(王滝小学校)

10月25日に木曾町内の道路において、パズルラリーを活用した交通安全教室が開催されました。

この行事は王滝村の王滝小学校児童が信号機のある横断歩道や歩行者用の歩道を歩いて安全な道の歩き方を実際に体験しながら交通安全を身に付けることを目的に、児童10名が参加して行われました。

この交通安全教室の企画にあたっては、王滝小学校の先生からの協力依頼により当センターが令和2年から行っている「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」のピースを提供することとしたもので①白線の内側を歩く②横断歩道は「手を上げて」「右左右を確認」して渡る③歩行者専用の歩道を(車道に出ないように)歩く等の指導ポイントを通すごとにパズルピースを渡すこととしました。

スタート地点である地元観光スポットの山村代官屋敷前の交差点を出発した児童たちは、交通ルールを守り安全に4つのポイントをクリアすごとにパズルピースを受け取り、ゴール地点の木曾町文化交流センターでパズルピースを貼り合わせる板と台座を児童全員が受け取ることができました。

パズルラリーのピースが思いもよらない形で児童の交通安全に役立ちました。



横断歩道を渡る児童

2 木曾路ナチュラルトレッキング Map の改訂版を作成

「木曾路ナチュラルトレッキング Map」は木曾ヒノキを始めとした木曾五木、ヒメコマツ、ウラジロモミなどの針葉樹と、ブナ、コナラ、トチノキなどの広葉樹や、中山道・旧飛騨街道の石畳の路跡など自然と歴史を感じることができる木曾谷の12ヶ所の散策路について、ルートや見どころなどを紹介した冊子です。

平成25年に発行し平成28年に改訂してから7年が経過しているため、主な内容は変わっていないものの掲載した写真が古いなど、現状とそぐわない部分を改訂したもの



改訂した冊子の表紙



ルート案内の内容(鳥居峠)

です。

このMapは木曾谷を訪れた多くの方に活用いただけるよう、観光案内所や道の駅等にご協力をいただいて配布していますが、当センターのホームページからも入手できますので是非ご覧ください。

第6 森林ボランティアへの技術支援

1 森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月25日・26日の2日間、塩尻市の長野県林業総合センターにおいて、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が森林ボランティア団体代表及び当センターによる実行委員会の主催により、ボランティア団体等の6団体と局署職員併せて30名が参加して開催されました。

この会議は、中部森林管理局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて森林ボランティア団体・NPO等の更なる資質の向上と連携強化を図ること等を目的に毎年開催されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止や規模を縮小しての開催が続き、4年ぶりに2日間にわたる開催となりました。

1日目は長野県林業総合センターの取組について説明を受けた後、「これからの連携推進会議について」をテーマに会議参加者が5班に分かれて意見交換を行い、どの班からも本会議を継続していく必要があるとの発表がされ、一般の方に森林づくり等に関心を持ってもらえる活動を行ってはどうかという意見も出されました。

2日目は、同センター内でスマートフォンのアプリを用いた木材の強度試験装置や森林整備・森林環境教育に関する貴重な資料や現地を見学し連携会議は終了しました。

2日間を通して参加者の見識を広めることができ、充実した連携・交流の場となりました。



参加者全員で記念撮影

2 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム

(特非)地球緑化センターは、日本各地での森林を守り育てるための活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林において「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、木曾森林管理署との間で「ふれあいの森(名称:『大樹の森・赤沢』)」の協定を締結し、毎年春と秋の2回森林整備を実施しています。

春期は、6月10日・11日の2日間開催され、14名のボランティアの参加がありました。

1日目は木曾森林管理署職員の指導により除伐作業が行われましたが、2日目はあいにくの雨のため作業を断念し赤沢自然休養林の散策に変更となりました。

赤沢自然休養林では当センター職員から自然休養林の概要や自然休養林もエリアに含まれている生物多様性復元地域(愛称:木曾悠久の森)の取組について説明するとともに、休養林内を巡りながら木曾谷林業の歴史等を学んでいただきました。



ひのき大樹を見学

秋期は、9月23・24日の2日間に、16名のボランティアが参加して開催されました。

作業は春期の続きの箇所から除伐作業を行い、1日目は木曾森林管理署職員、2日目は当センター職員2名の指導により行われました。

参加者の半数が初参加でそのうち4名が大学生でしたが、作業の2日目ということで1日目より作業が上手にできたという話も聞かれました。

作業終了後は、伊勢神宮において20年に一度行われる式年遷宮の行事として平成17年に伐採された御神木の切り株を見学し全ての日程を終えました。

森林整備の必要性や重要性を伝えられる本プログラムに、今後も協力していく考えです。



協力して作業を行う参加者

赤沢自然休養林内の植物



散策路沿いのアカヤシオ（4月）



駐車場付近のオオヤマレンゲ（6月）



散策路沿いのヤマボウシ（7月）

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	11	木曾十一宿パズルラリー確認(南部)
	12	木曾十一宿パズルラリー確認(北部)
	13	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	16	NPO「木曾ひのきの森」総会(上松町)
	18	伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
		八沢入国有林・裏駒ヶ岳国有林内 センサーカメラデータ回収(木曾町)
	21	カタクリ開花調査(木曾町城山国有林)
	24	令和5年度第1回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(塩尻市・えんてらす)
27	赤沢自然休養林 パズルラリー箱設置(上松町小川入国有林)	
5	8	城山史跡の森 ヤマシャクヤク開花調査(木曾町城山国有林)
	12	長野県上松技術専門校体験林業(上松町小川入国有林)
	15	岐阜県立加茂農林高校 赤沢自然休養林案内(上松町小川入国有林)
	16	城山史跡の森 ササユリ電気柵設置(木曾町城山国有林)
	17	城山史跡の森 カザグルマ開花調査(木曾町城山国有林)
	22	城山史跡の森 カザグルマ周辺の整備作業(木曾町城山国有林)
	24	信大農学部赤沢自然休養林(奥千本)案内(上松町小川入国有林)
		岐阜県立岐阜農林高校体験林業 赤沢自然休養林案内(上松町小川入国有林)
25	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村御岳国有林ほか)	
6	9	城山史跡の森 ササユリ開花調査(木曾町城山国有林)
	11	(特非)地球緑化センター森林整備(上松町小川入国有林)
	13~14	三者協定現地検討会 赤沢自然休養林内の古い根株の年代解析(上松町小川入国有林)
		三者協定現地検討会 木曾ヒノキ天然更新試験地調査(王滝村三浦国有林)
	15	城山史跡の森 ササユリ開花調査(木曾町城山国有林)
	16	御岳パズルラリー打ち合わせ
	20	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入国有林ほか)
	23	伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
	26	令和5年度第2回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(塩尻市・林業センターほか)
	28	鳥獣保護及び狩猟に関する講習会(南信署)
	29	木曾駒ヶ岳植生復元予定箇所現地確認(上伊那郡宮田村黒川国有林)
30	御嶽山麓パズルラリーポスター配布(木曾町黒沢御岳国有林)	

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
7	4	木曾十一宿パズルラリー確認(南部)
	5	八沢入国有林・裏駒ヶ岳国有林内 センサーカメラデータ回収(木曾町)
	10	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	11	上松中学校森林体験学習(上松町小川入国有林)
	19	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	21	信大農学部森林生態学演習(上松町小川入国有林)
	25～27	青峰高校生就業体験
	25	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	26	木曾地区みどりの少年団交流集会(木曾町日義 木曾駒森林公園)
	27	小林式誘引捕獲法の現地検討会(ニホンジカ誘引捕獲ほか)(南信署管内)
8	2	教職員森林・林業体験学習会(木祖村小木曾国有林)
	2	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	7	林政懇談会(木曾町)
	9	木曾駒ヶ岳植生復元種子採取(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	14	御嶽山麓パズルラリー確認(木曾町黒沢御岳国有林)
	17	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	18	城山史跡の森 センサーカメラデータ回収(木曾町城山国有林)
	22	木曾駒ヶ岳植生復元種子採取(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	23	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	30	林政懇談会(木祖村)
	30	木曾十一宿パズルラリー確認(北部)
	31	伊奈川国有林内 センサーカメラデータ移設(大桑村)
9	2	愛知県みよし市友好の森森林整備(木曾町)
	6	木曾駒ヶ岳植生復元作業(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	15	阿寺展示林プロット調査箇所刈払(大桑村阿寺国有林)
	24	(特非)地球緑化センター森林整備(上松町小川入国有林)
	25	令和5年度第3回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(塩尻市・えんてらす)

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
10	3~4,16	湿性ポドソル地帯の更新法試験地調査(王滝村三浦実験林)
	8	赤沢森林浴大会案内
	12	R5 木曽郡植樹祭 (上松町小川 (H7県の植樹祭会場))
	18~19	木曽ヒノキ天然更新試験地調査(森林総合研究所・木曽森林管理署共同)(王滝村三浦国有林)
	23	木曽地区町村有志連絡協議会(木曽署)
	24	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村御岳国有林ほか)
	25~26	令和5年度森林ボランティア・NPO連携推進会議(塩尻市 長野県林業総合センターほか)
11	1	木曽ヒノキ天然更新試験地調査(森林総合研究所・木曽森林管理署共同)(王滝村三浦国有林)
	8	御嶽山麓パズルラリーピース等回収(木曽町黒沢御岳国有林)
	9	赤沢自然休養林 パズルラリー箱冬囲い(上松町小川入国有林)
	13	伊奈川国有林内、裏駒ヶ岳センサーカメラデータ回収(大桑村、木曽町)
	14	小木曽国有林、奈良井国有林、八沢入国有林内センサーカメラデータ回収(木祖村、塩尻市、木曽町)
	20	木曽ヒノキ天然更新試験地調査(森林総合研究所・木曽森林管理署共同)(王滝村三浦国有林)
	21	城山史跡の森 ササユリ電気柵撤去(木曽町城山国有林)
	21	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入国有林ほか)
	28	全国社寺屋根技術工事保存会研修会(赤沢自然休養林)
	29	「木曽悠久の森」管理委員会現地検討会(木曽署ほか)
12	6~8	古根株サンプル採取(森林総合研究所共同(上松町小川入国有林))
	7	令和5年度ニホンジカ等獣害対策現地検討会(南木曽町柿其国有林)
	12	権兵衛峠・境峠・裏駒ヶ岳国有林内 センサーカメラデータ回収(塩尻市・木祖村・木曽町)
	13	伊奈川国有林・八沢入国有林 センサーカメラデータ回収(木曽町・大桑村)
	25	城山国有林 センサーカメラデータ回収(木曽町)
1	19	カラマツ林業等研究発表会(長野県総合教育センター講堂)
	26	令和5年度中部森林技術交流発表会(web方式)
2	2	境峠・八沢入国有林 センサーカメラデータ回収(木祖村・木曽町)
	26	令和5年度「木曽悠久の森」管理委員会(web会議)
	27	三者協定に関わる打ち合わせ会議(web会議)
	28	令和5年度林政協議会木曽谷流域部会(木曽署)
3	7	ナチュラルトレッキングMap配布(木曽南部)
	12	ナチュラルトレッキングMap配布(木曽北部)
	13	令和5年度第4回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(上田市菅平高原 やまぼうし自然学校)